

18/7/30 河村たかし名古屋市長定例記者会見  
(名古屋市民オンブズマン書き起こしメモ)

記者:名古屋城基本計画は7月終了予定だったが現状は?

河村市長:石垣は厳しいのではないかとってちょうどと言われております。  
ただ、文化庁からはできる限りのサポートをしますと、現場同士話し合いました。  
とってますので。  
精力的に話し合いをつづけていく

記者:復元検討委員会7月に開催されるから

河村市長:今度10月にある

記者:それは審議会では?

河村市長:10月は審議会

記者:7月の復元検討委員会で見てもらうのが限りなく難しい

河村市長:8.9もある 復元検討委員会  
マスコミはなにをやっているんですか?  
どうもなんかよ、歴史的建造物の復元の概念自体を否定しているのか  
そういつて論調を張ればよい

共同通信 それは別の問題

河村 基本的な問題

共同通信 ちゃんと進むのか

河村 石垣部会と丁寧に話し合う  
世紀の大建築  
はじめのステップ 2022年12月には間に合わせます

共同通信 市の方針としてはそれでよいかもしれないが、文化庁としてそれでうんというかが

大事だと思うんですが、  
例えば復元検討委員会は8.9月に開かれる見込みがあるか  
石垣部会の意見をそろえて提出できるみこみがあるのか

河村市長：文化庁は僕が行ったときに何遍も言いますけど、できる限りのサポートはしますと。あとは現場でやりましょうと。言われましたよ。これ。

記者：できる限りのサポートは何をさしているのですか？

河村市長：いろんな人と接したり、ということですよ

記者：10月の現状変更許可はまだいけるということですか

河村市長：いやいや

記者：今後具体的にどのようなスケジュールかあらためて整理をして  
基本計画をちゃんとした物をつくって出す

河村市長：石垣部会の了解をえてちょう、と。それです。  
はっきり言われてます。そういうこと。石垣部会の了解を得るように、できる限りの  
サポートは文化庁はしますと明言されています。

記者：8月9月に仮に石垣部会から同意を得て、得た段階で基本計画を提出するというかたちになりますか？

河村市長：ちょっとわかりません。それこそ文化庁と相談するということ。

歴史的建造物。もしあれだったら日本における歴史的建造物の復元はなくなるんじゃないですか？これ。こんだけ資料もそろった歴史的建造物の復元というのは文化庁が何遍も言ってますが基準で定めておりますけど、1つは歴史的建造物じゃなくなったとき。2つはあったところの真上に作る 3つめは豊富な資料により同じ物をつくるということ。あるわけです。そういう要件を持って歴史的建造物を過去の職人芸じゃない？名古屋城で400年前に中井だったかな？頭領連中をふくめものすごい人達がどえらい情熱を傾けて木造建築物を作ったわけです。世界最大の。法隆寺以来の究極の到達点。その人達の技というか情熱を残して次の世代に継いでいくと。というのは任務じゃないのこれ？任務と思わん？思わん？

記者：7月に基本計画を提出する予定だったと思いますが、それができなかった主な理由と、今後どのタイミングで提出するのか？

河村市長：調整の場所にいたわけではないが、石垣部会の皆さんと若干お話があわなかったところはある。ということですよ。

石垣部会の皆さんも立派なレポートを出していただいて、どう書いてあったかな、調査が進むでしょう。書いてありました。

まあ、丁寧にやっておる文化庁もそういっておられるので、こっちも話しに合わせて精一杯やっていくと。できる限りのサポートをしますというのは有り難い言葉。

それは持ってかないかん。こちらもできる限りの努力はしたい。

いろんな新聞の論調ありますが、テレビもありますが、河村さんが勝手に言っていることだと思ってるんじゃないかなこれ？文化庁がきちんとまとめた基準があって、それに当てはまるとようするに建築基準法の適用がないと言うこと。なんでないかという、そこに何遍も言ってますけど、「ぎょうせい」が出版しているコンメンタール逐条解説があって、それは任務だから、今を生きる人間のそういう先人の努力をですね、世界に日本に伝えていくのは任務だとはっきり書いてある。だから

記者：いいですか。いまの話をもとめると、石垣部会の了承が得られない限り、この話は進まないのかな、と思うんですが

河村市長：努力すれば。そんなこと言ってたらあらゆる建築物は出来ませんから。

記者：石垣部会と何をするのですか？

河村市長：いろいろどっかのところで進めて下さいかわかりませんが、もう一回こういう所を説明下さいとか。そういう話しをするということ。

記者：それで石垣部会の了承が基本原理か？

河村市長：理解を得る

記者：得られないと、これは文化庁に提出できないし、事業が進まないと言うことか

河村市長：そうしてくださいと文化庁から言われとる

記者：市長としてはどうお考えか

河村市長：それは常識的なお話でしょうか？地元で話し合ってくださいよと。

それはまあ常識的な話し。ただ、文化庁とて、当然ながら歴史的建造物の復元というわざわざ基準を出して自分の所でやるところ。

要望書の返事には、はっきり文化庁としては歴史的建造物の復元を残していくことは不可欠であるとはっきり書いてある。不可欠。不可欠というのは大きいですよ

記者：すみません、10月の文化庁の審議会を目指すのは変わっていないのか

河村市長：は？

記者：10月の文化庁の審議会を目指すのは変わっていないのか

河村市長：はいはい

なんでみんなそうやめさせたいのこれ

記者：わはは

河村市長：俺はようわからんのだわ マスコミ、ジャーナリズムの感覚は。

任務と思ってやっているもん。今の時代を生きる人間の。

本物を残してずっと未来に続いていくと。

福祉の皆さんにも言いましたが、本当にエレベーターをつけたりして、エレベーターつけたりなんかするとですね、あれですわね 11人乗りだと柱 10本 梁 30本 かえないかん もっと変えないかん 耐震が全部やり直しになりますし。

そうすると福祉の皆さんは未来永劫にいわゆる徳川家康の頃ですね、ものすごい職人が来て作って、ようするに法隆寺以来の究極の到達点である木造建築を見えないことになりますよ。これ。

ええんですかそもそも。そういうのでバリアフリーで本当に真剣に考えていかないといかんですよこれ。

記者：話を戻していただきたい

河村市長：戻してって、そこが重要なところで、あんたらが

毎日三上：石垣部会と話しがあわなかったとありますけどね

河村市長：そんなことはありません。

記者：わはは

河村市長：そりゃ努力してこれからやろうといってるのに、そんなこといっていたら話にならない。文化庁に失礼じゃないですか。できる限りの

記者：石垣部会はいったい何を 石垣部会の理解を得られていないのはどの部分が得られていないと思っていますか

河村市長：もうちょっと調査してくれと言っていると思いますが、その詳細をきちんとつめて、具体的に つめて名古屋市としては今の段階でこういうことでお願いしますとして文化庁と相談してやっていく そういうことです。

記者：事実上、10月の文化審議会は難しいですよ

河村市長：そんなことはありません 文化庁自体ができる限りのサポートをするとするいつているときに、失礼じゃないの、まずそんなこといったらサポートすると言っているときに出来ません言ったらものすごい失礼ですよこれ

記者：サポートというのは10月の文化審議会に了承を得られるようにサポートするというとおっしゃいましたか

河村市長：そんなことは言ってないけれど

記者：言ってませんよね

河村市長：夏のスケジュールで努力するとそれは言ってありますから私。  
そうでしょう？そういつとるなかでそんなもんでできませんわとこっちは勝手に言ったら失礼な話しですよ

記者：7月末までに出す予定

市長：もっとはようやっていくと  
現場で相談してと言われましたので、できる限りサポートする内容ですよ  
話しがあってないところ、具体的に つめる作業を熱心にやると言うこと

記者：当初は7月末までとっていましたが、8月中とか9月中とか

河村市長：それは早いうちですわ。毎日熱心にやります。これだけ調査やってるもん。

記者：ぎりぎりまで

河村市長：当たり前じゃないですか

これからまだずっと続くんですよ 石垣の調査 そもそも  
これで終わりということはない 竹中さんの提案でも40億だったかな  
石垣の調査で、回答は500億なんだけど入っている。そもそも  
天守を作りながらでも、上を取り壊したあとでもですね、完全に出来た後でも  
さらにいろんな調査をしてですね 全体の石垣、よういっておりますけど、  
正門から入っていったところすぐ、だだっ広い広場になっていたけど、石垣があった  
中へ 食い込んでいる あった  
これは離宮になったときに馬車が通れんと言うことでうめちゃったみたいですけど  
要はそういうのも復元していったり、いろんなことをやって石垣自体も丁寧にやってい  
くということですよ

記者：復元検討委員会の開催されるぎりぎりまで石垣部会と調整を進めて、審議会でいきなり現状変更許可も得ていくということですか

河村市長：そんなことなれへんと思いますよ 文化庁に聞いてくればいいじゃないですか

文化庁はできる限りのサポートをするということは、それはなんですか、復元検討委員会もそういうように誰か知りませんが、勝手に言うのはまずいですから、

文化庁はできる限りのサポートをするといっているの、お願いしながらまたこちらからもやるべくことはきちっとやると、誠意をみせると そういうことじゃないですか

世界ナンバーワンのあれじゃないですか、歴史的建造物の復元をやると 1000年持つ引き継いでいくと マスコミを見てると、名古屋城を復元せんでもええって書いたらどうですかほんなら そういうことになりますよこれ 復元しなくてもやたらいい新築頼むんだって書いたる所もある いくらでも

記者：完成をのばしてじっくり話し合うという選択肢もあると思うがそういうことは

河村市長：そんな必要ない。文化庁がそう言っているんだから、やりゃあいいじゃないですか

現にすごい調査やっとならないですか すごい調査を

中部経済新聞：天守閣部会の指摘を受け、修正した文化庁に提出する書類自体はできたのですか

河村市長：今の段階ではほとんど出来ておりますようちの方では  
けどより丁寧に必要な作業をしているということです。学芸員とか。

記者：書類自体はもうできて出す状態になっているのか

河村市長：関係人で一切てをいれないという物じゃない

記者：完成した状態？

河村市長：なんていった？名乗っていただいて

名古屋城の村木：基本計画書は、石垣とかものとしてはできて、文化庁に持参はしたが、  
石垣の保全について、石垣部会と認識が一致していないというところがございます、  
指摘を受けまして、7月につきましては提出を見送ったということになっています

記者：前半が聞き取れなかった

名古屋城の村木：7/13 石垣部会、7/19 天守閣部会を経て、その指摘を踏まえて修正したものを文化庁に持参は致しました。

文化庁での専門有識者との認識の一致を見ていないとの指摘を受けて、7月の提出は見送った。

記者：その日にちは何日ですか

名古屋城の村木：具体的なところはまだいまそういう状況ではない

記者：持参したのはいつですか

名古屋城の村木：それもちょっとすみません まだあの  
復元検討委員会を含めてまだ出せる状況ではない 申し訳ない

記者：文化審議会にかけるには、復元検討委員会にあげる必要があるんですよね  
なしで直でだすんですか

名古屋城の村木：ちょっと復元検討委員会自体が文化庁の内部の会議ですので、  
そちらについては私どもは承知していない  
手続きについては承知していない  
一般的には復元検討委員会にお諮りすると私どもは理解している

記者：表現なんです、持参はしたが提出することが出来なかった  
文化庁側の言い方と、名古屋市の言い方と齟齬がある  
ということなのか

名古屋城の村木：私どもと致しましては、指摘を受けて見送ったというか提出しなかった

記者：指摘を受けて見送った 提出しなかった

記者：名古屋市としてはもちろん持参したときに提出するために持って行ったが、  
それを見せたら文化庁の方が石垣部会の了承を得ていないでしょうと言われて  
それで見送った、持ち帰ったということか

名古屋城の村木：そうです 当日指摘を受けまして、地元の有識者と認識が一致していな  
いですねという指摘を受けまして、それを受けて判断した

河村市長：文化庁さんも丁寧にやっているとすることだわなようにするに  
まじめに丁寧に

記者：すみません、持参した日をお話しただけなのはなんでですか？

名古屋城の村木：それも含めていま調整をしている  
出すべき情報を整理中です

記者：今月下旬

名古屋城の村木：そうですね 天守閣部会終了後ということになりますので

記者：この前市長が行かれたときではなくて

名古屋城の村木：はい

河村市長：それは違う まあ、文化庁としてはこうで、ということはいわんでほしいと

名古屋城の村木：具体的なところはちょっとまだ

河村市長：そういう外部から

記者：文化庁の以降ですか

名古屋城の村木：まだ今調整中の事項ですので  
また明らかにできる状況はある

記者：何を調整しているのか

名古屋城の村木：今後のことも含めて

記者：今後のことを含めて何を調整するのですか

名古屋城の村木：今後の手続ですとか、とるべき今後の内容について

記者：文化庁は別に受け取っていないのですし、来た日をいうなどか言わないと思うのですが

名古屋城の村木：ちょっと今公表すべきものとそうじゃないものと、ちょっと今整理し切れていないので

記者：文化庁との協議ではなくて、市の内部

名古屋城の村木：私どものほうでということ

記者：名古屋市でも障害者差別を禁止する条例を作成途中と言うことで、先週ある衆議院議員が、生産性がないものには税金を使わなくてよいという文書をだしたが、こういった発言が市で作る条例でこういうことを不適切な発言をするケースに対して何らかの対応を盛り込むべきだと思われませんか

河村市長：まあ、具体的にどういう発言をするとどうなるというのは、なかなかむずかしいですね。実際の所。いちおう条文化すると言う立て方が。罪刑法定主義ですので。いちおうブレーキを科すときにはその要件をはっきりしてないといかんということ。いっぺん考えてみますけど、発言そのものに対してサンクションを与えることはなかなか難しいことではあると思いますけど。実際は。これ言っちゃあかんあれ言っちゃあかん 差別的発言はいかん。ということくらいは書いてあるんかどうか知りませんが。そのところまだみてない。

記者：やはり市議会と非難決議が必要なのではないか

河村市長：非難決議？非難決議？

記者：こういった一連の発言に対し

河村市長：市議会がやられるかどうかはちょっとよおわかりませんが、いかんですね。そう思いますけど

記者：村木さんに確認出来ればと思いますが、結局、基本計画を復元検討委員会に提出するという意向はまだ続いているということでしょうか。

名古屋城の村木：できるだけ早いタイミングで提出できるようがんばる

記者：それは審議会である復元検討委員会に出すということですか

名古屋城の村木：手続が具体的な手続となると復元検討委員会でお諮りいただくということになりますので。

記者：一般論いつているので、名古屋市としての今の現状を聞きたいのですが、名古屋市としてはどうしていくのか

名古屋城の村木：手続として必要な手続を踏んでお出しする

記者：復元検討委員会で諮っていただく必要があるのか？

名古屋城の村木：私どもはそう考えている

記者：7月開催見込みの復元検討委員会がどうなったかはいえないのか

名古屋城の村木：文化庁の内部会議で、私どもとしては承知していない

記者：把握していない？

名古屋城の村木：そうですね。具体的なところはそう

記者：復元検討委員会というのは、7月に開催されるという認識はあるのですか

名古屋城の村木：ちょっとその辺もご相談することになると思います

記者：目標がなければ、頑張れない それではできない

名古屋城の村木：これから相談させていただく

河村市長：文化庁はできる限りのサポートをすと言っておられる人に対して、こっちも精一杯やらないかんですけど。失礼ですわ。ええ

-----

記者：IR

河村市長：IRについては、やるやらんは国が決める

手をあげるかあげないか それも含めて勉強会は作っていこうと話してあります  
市民の皆さんにわかりやすくどういうものが成功した例もあるし失敗した例もある  
わかりやすくお知らせすることが必要だと思う。  
やっていますから

記者：庁内での勉強会ですか

河村市長：庁内、役人だけでやることではありませんので、業界だとか業者がいますよね。  
実際にやるところ 世界中でやってるところに来ていただいて、どうなんだというお話を聴きながら、市民の皆さんの知る権利に応じさせていただくと。いうことでございます。

記者：勉強会みたいなこと 立ち上げたいということか

河村市長：立ち上げないかんでしょう。法律がおってまった以上、やっぱやったほうがええという人も大勢おみえになりますよ

記者：時期はいつ頃になりますか

河村市長：まあ早い頃にやります

よろしいでしょうか。これで市長会見は終了となります